
流れ星

夜鳥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

流れ星

【Nコード】

N9626C

【作者名】

夜鳥

【あらすじ】

流れ星。幾つ堕ちれば求むるものは。

流れ星

死期を悟れば光り輝き 自ら潰える 流れ星
只それだけの宿命に

馴れ合いは無用

感情は塵芥

積るならば掃けば良い

星の数 意思の数

遂げられないものばかり

只それだけの事で

全ては今で 今に終わり

一時に生き死せるだけの命なら その一時に全てを捧ぐ

只それだけが全て

堕ちゆく身で許される行為

今堕つる生命 感じるモノは只痛み

蒼白の体はひび割れ軋む

光を纏えど それは生命の流出

只流れ出す魂は もがきながら黒紙に苦痛の掻き跡を残す

只 生けるだけ 死ぬだけ

何も求めてなどいないのに 堕とされる

神という存在が無邪気な子に還り 空に燦然とたたずむ星を
適当に狙い撃ち落とし 遊び喜んでいる様な錯覚

幾つ数えども 堕ちた星は戻らない

高々と光る 晃晃と浮かぶ

その身が堕ちる

加速度を上げて 白い筋を涙のごとく
地平線の果てに行き着けば 呆気無い終わり
碎けて散った

きらきら きらきら

散らす体は粉雪の様で

その欠片がまた幾千もの星になり
同じ道を辿り巡れど 行き着くは同じ終わり

ぱたぱた ぱたぱた

消える魂に流れる嘆き

何故 何故 と 問う声も虚しく
散った星々は 然う思う事も出来ぬのに

何故 何故 散ったと
如何して 如何して と

哀しめど それは嘲笑りに似て
神の気向くまま 堕ちる身に降る言の葉は
主に愛求むるものへと 傷を生む

然うと気付かずに同情を寄せる 神は無知
然うと知ろうども愛を望む 星は無様

無邪気な神の嘆きの涙は 星降らす夜の長い雨

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9626c/>

流れ星

2010年11月14日09時38分発行